

Ⅲ 薬物乱用防止に関する指導実施状況調査結果

1 薬物乱用防止に関する指導についての質問

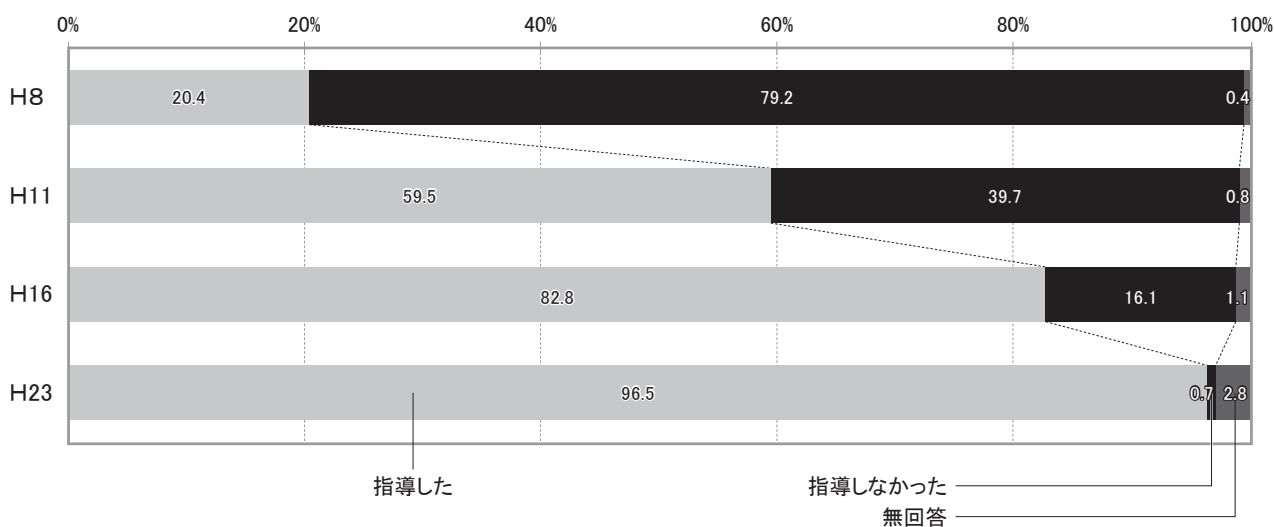
(1) 各教科等の指導時数

【全体】

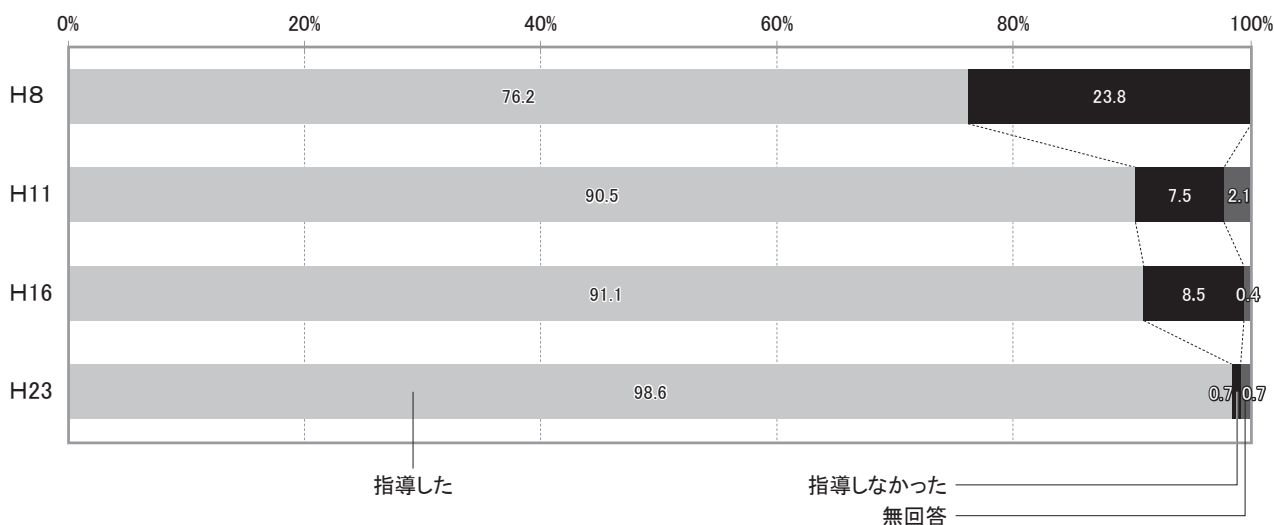
- 学校における薬物乱用防止に関する指導状況については、学校種にかかわらず指導を行っている学校の割合が経年的に高くなっており、平成23年度では95%を超えていた。

図Ⅲ-1-(1)-1 薬物乱用防止に関する指導を行っている学校の割合

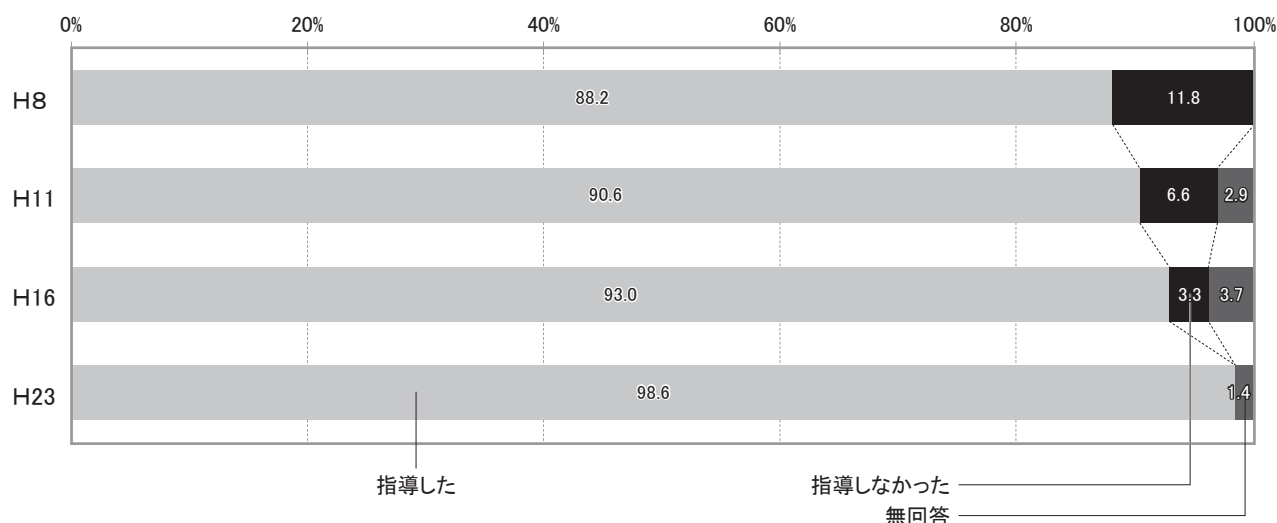
小学校



中学校



高等学校

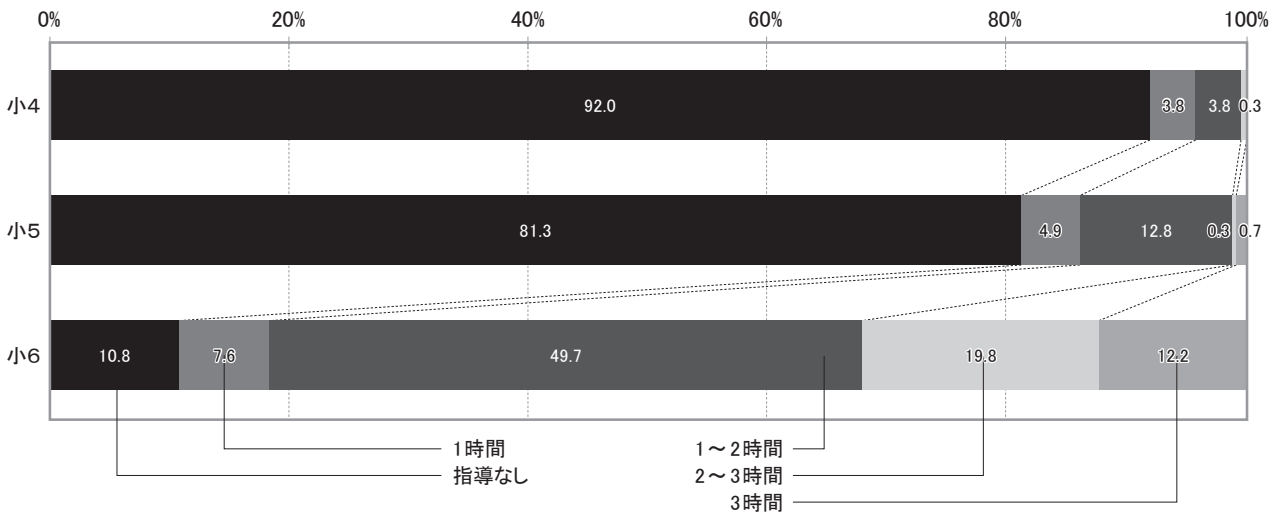


【小学校】

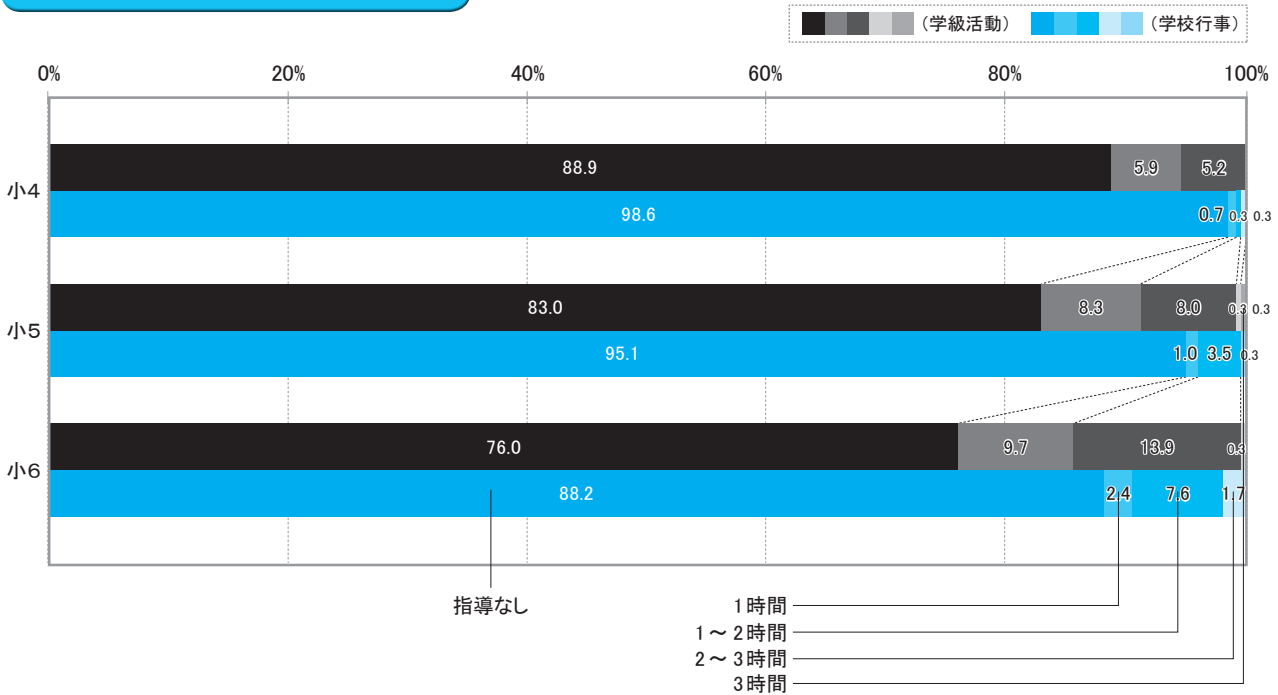
- 小学校では、薬物乱用防止に関して「体育」で最も指導されており、次いで「学級活動」、「学校行事」の順であった。
- 「体育」での指導は、学年別では第6学年が最も多く、89.2%（全調査対象288校中257校）であり、18.8%が第5学年で指導していた。また、第6学年の「体育」では、1単位時間以上2単位時間未満指導時数を当てている学校が最も多く、次いで2単位時間以上3単位時間未満であった。なお、3単位時間以上を当てている学校も12.2%あった。
- 「学級活動」での指導は、学年別では第6学年が最も多く、24.0%（全調査対象288校中69校）であり、17.0%が第5学年で指導していた。また、第6学年の「学級活動」では、1単位時間以上2単位時間未満指導時数を当てている学校が最も多く、次いで1単位時間未満であった。
- 「学校行事」での指導は、学年別では第6学年が最も多く、11.8%（全調査対象288校中34校）であり、4.9%が第5学年で指導していた。また、第6学年の「学校行事」では、1単位時間以上2単位時間未満指導時数を当てている学校が最も多く、次いで1単位時間未満であった。

図Ⅲ-1-(1)-2 薬物乱用防止に関する指導を行った時数

体 育



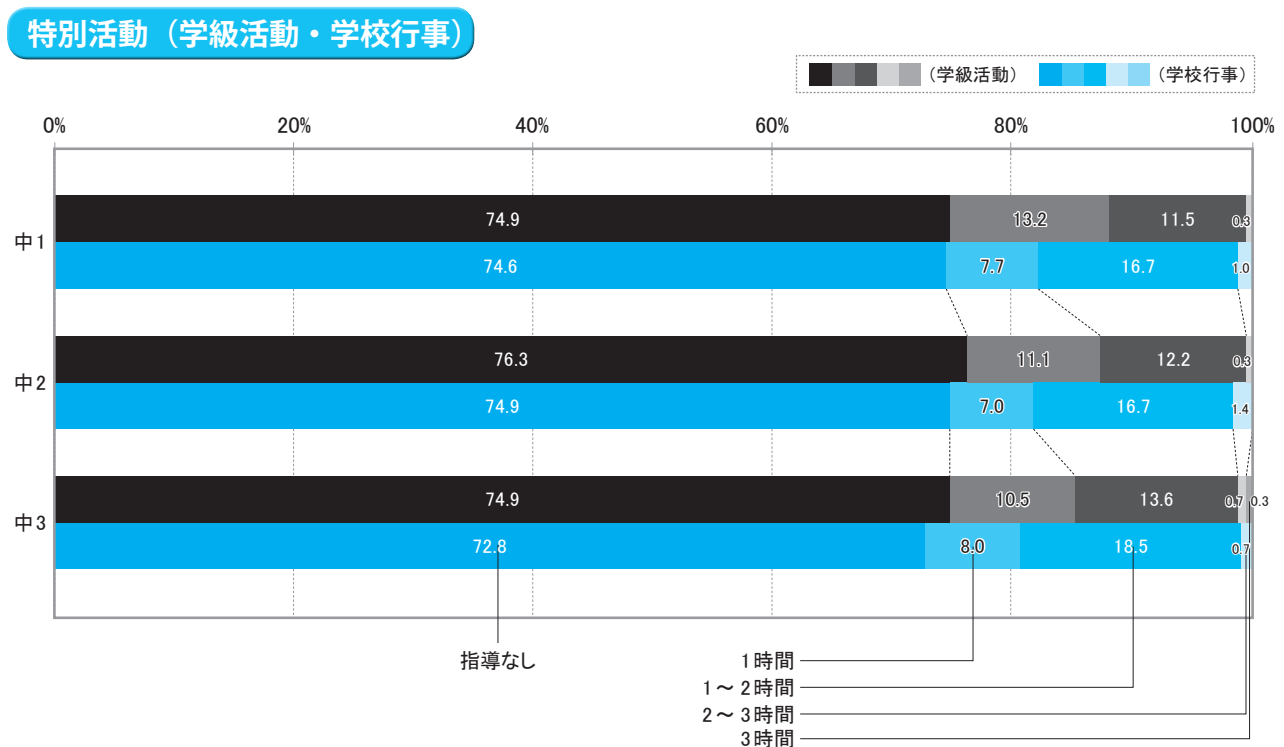
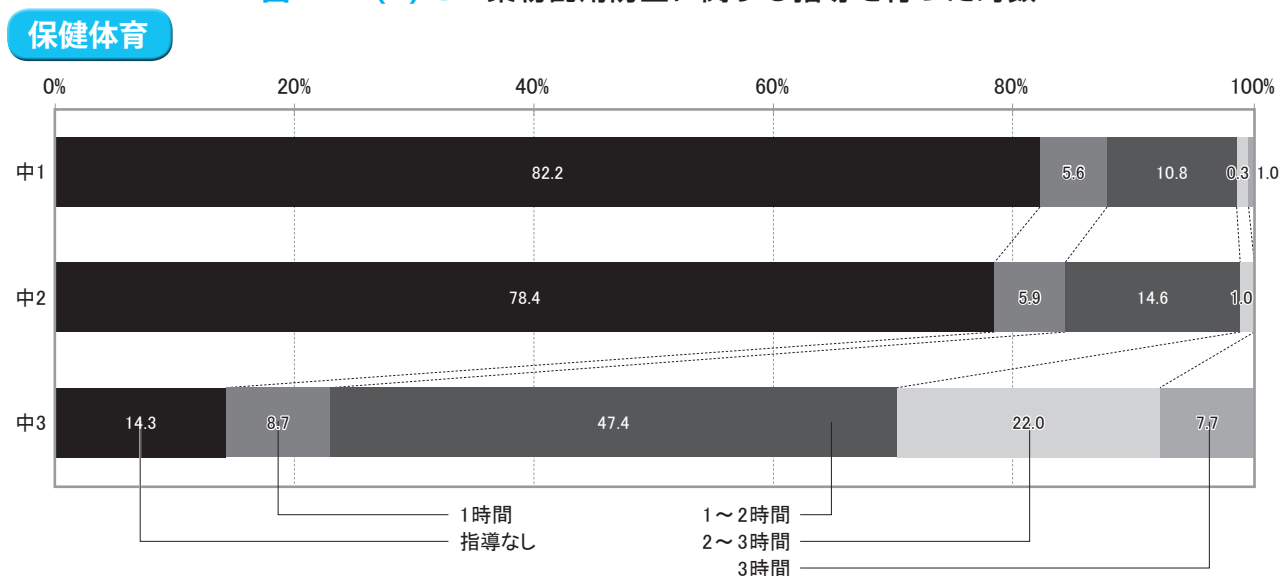
特別活動（学級活動・学校行事）



【中学校】

- 中学校では、薬物乱用防止に関して「保健体育」で最も指導されており、次いで「学校行事」、「学級活動」の順であった。
- 「保健体育」での指導は、学年別では第3学年が最も多く、85.7%（全調査対象287校中246校）であり、21.6%が第2学年で指導していた。また、第3学年の「保健体育」では、1単位時間以上2単位時間未満指導時数を当てている学校が最も多く、次いで2単位時間以上3単位時間未満であった。なお、3単位時間以上を当てている学校も7.7%あった。
- 「学校行事」及び「学級活動」で指導を行っている学校の割合は、学年別で大きな差が認められずいずれも概ね25%であった。また、指導時数として1単位時間以上2単位時間未満を指導時数に当てている学校が最も多かった。

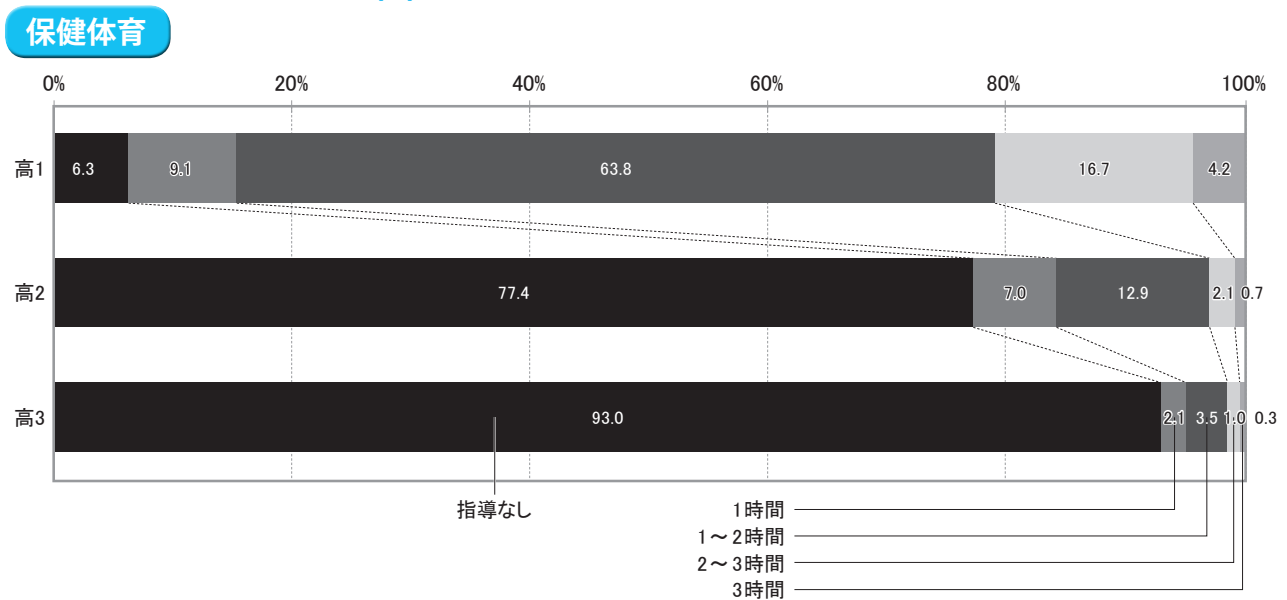
図Ⅲ -1-(1)-3 薬物乱用防止に関する指導を行った時数



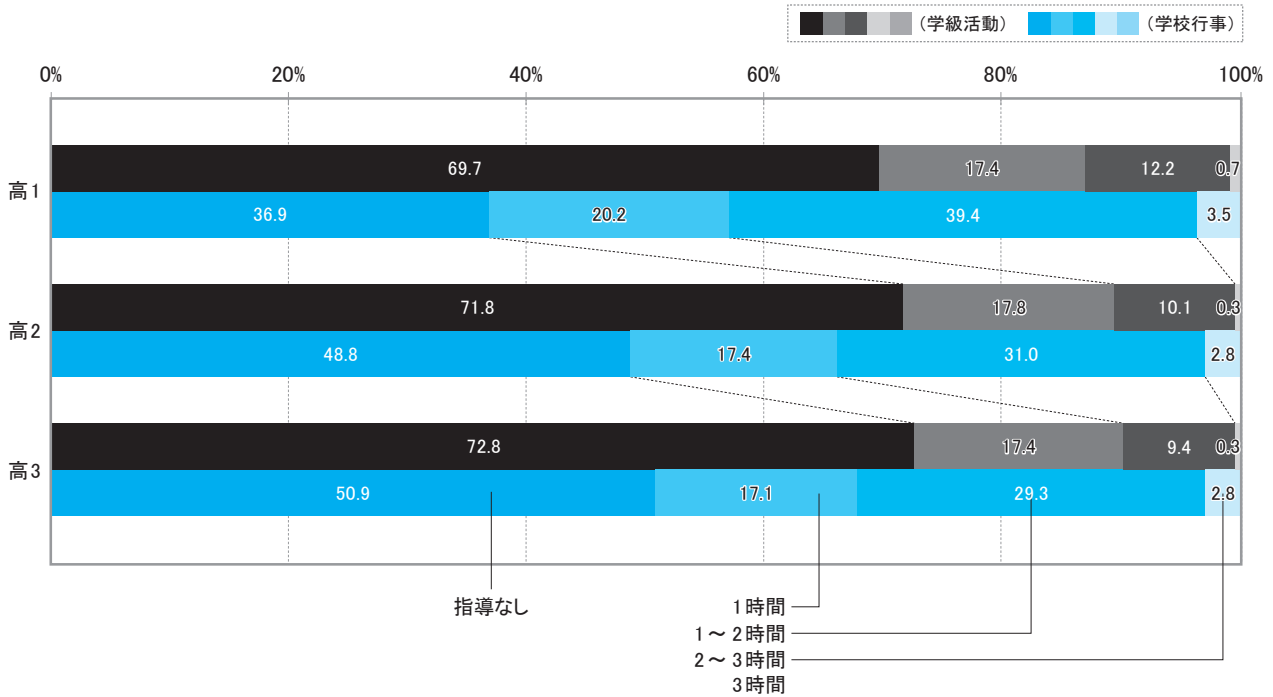
【高等学校】

- 高等学校では、薬物乱用防止に関して「保健体育」で最も指導されており、次いで「学校行事」、「ホームルーム活動」の順であった。
- 「保健体育」での指導は、学年別では第1学年が最も多く、93.7%（全調査対象287校中269校）であり、22.6%が第2学年で指導していた。また、第1学年の「保健体育」では、1単位時間以上2単位時間未満指導時数を当てている学校が最も多く、次いで2単位時間以上3単位時間未満であった。なお、3単位時間以上を当てている学校も4.2%あった。
- 「学校行事」での指導は、学年別では第1学年が最も多く、63.1%（全調査対象287校中181校）であり、51.2%が第2学年で指導しており、第3学年でも49.1%が指導していた。また、第1学年の「学校行事」では、1単位時間以上2単位時間未満指導時数を当てている学校が最も多く、次いで1単位時間未満であった。
- 「ホームルーム活動」での指導は、学年別で大きな差が認められずいずれも概ね30%であった。また、指導時数として1単位時間未満を指導時数に当てている学校が最も多かった。

図Ⅲ-1-(1)-4 薬物乱用防止に関する指導を行った時数



特別活動（学級活動・学校行事）



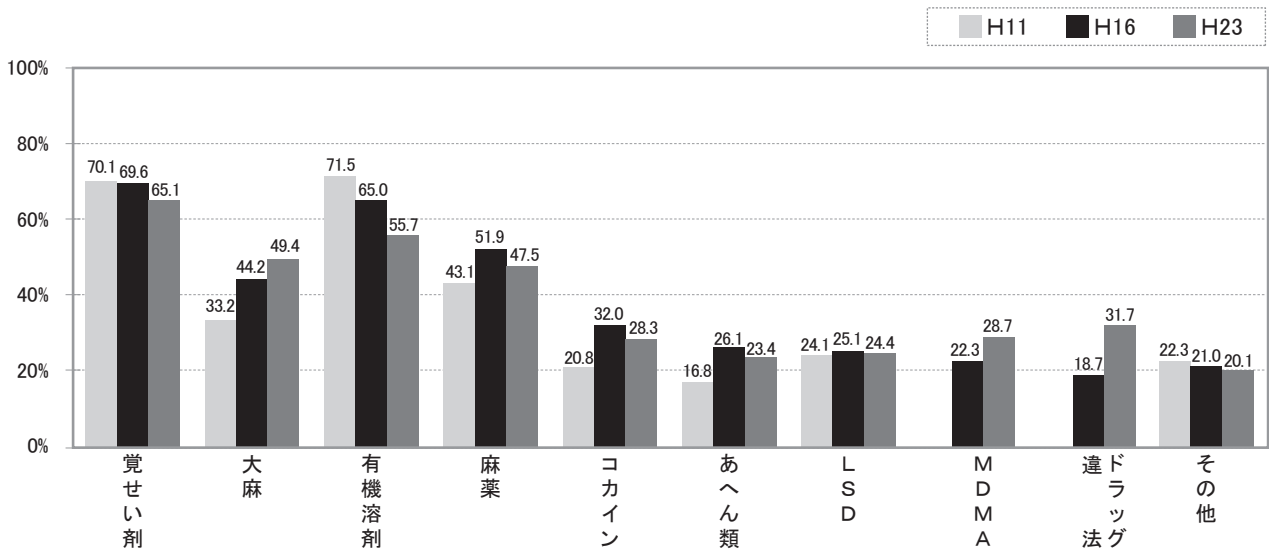
（2）指導中に取り上げた薬物名

- 薬物乱用防止に関する指導の中で取り上げられた薬物名は、（1）において学校種別に薬物乱用防止に関する指導を行った教科及び学年を通して集計した。

【小学校】

- 小学校の「薬物乱用防止に関する指導」では、「覚せい剤」が最も取り上げられており、次いで「有機溶剤」、「大麻」の順であった。
- 平成16年度の調査結果と比較すると、「違法ドラッグ」、「MDMA」、「大麻」を取り扱う学校の割合が高くなっていた。
- 第6学年の「体育」での指導で取り上げられた薬物の割合は、「覚せい剤」が最も高く86.0%（「体育」で指導を行った257校中221校）であり、「有機溶剤」が76.3%、「大麻」が67.3%であった。

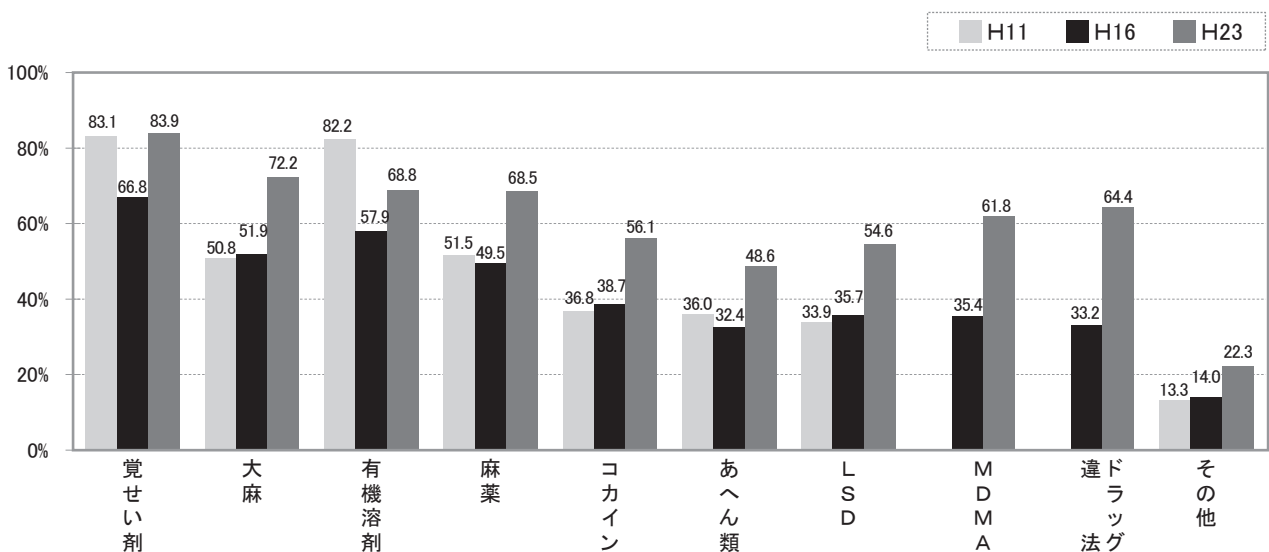
図Ⅲ-1-(2)-1 薬物乱用防止に関する指導において取り上げた薬物名



【中学校】

- 中学校の「薬物乱用防止に関する指導」では、「覚せい剤」が最も取り上げられており、次いで「大麻」、「有機溶剤」の順であった。
- 平成16年度の調査結果と比較すると、例示されたすべての薬物について取り扱う学校の割合が高くなっていった。
- 第3学年の「保健体育」での指導で取り上げられた薬物の割合は、「覚せい剤」が最も高く94.7%（「保健体育」で指導を行った246校中233校）であり、「大麻」が90.7%、「有機溶剤」が87.4%であった。

図Ⅲ-1-(2)-2 薬物乱用防止に関する指導において取り上げた薬物名



【高等学校】

- 高等学校の「薬物乱用防止に関する指導」では、「覚せい剤」、「大麻」、「違法ドラッグ」の順で取り上げられていたが、その他の薬物についても幅広く取り上げられていた。
- 平成 16 年度の調査結果と比較すると、例示されたすべての薬物について取り扱う学校の割合が高くなっていった。特に、「違法ドラッグ」を取り上げる学校の割合が著しく高くなっていった。
- 第 1 学年の「保健体育」における指導で取り上げられた薬物の内、「覚せい剤」、「大麻」、「麻薬」は 95% を超えており、「有機溶剤」、「コカイン」、「MDMA」は 90% を超えていた。

図 III -1-(2)-3 薬物乱用防止に関する指導において取り上げた薬物名

